

## シリーズ

# 『受けててよかった！がん検診』④

今回はがん検診についてお伝えします。

町の検診の特徴は1度に多くの人数が受けることができ、しかも安価で体への負担が少なく安全性の高い検査方法で実施しています。

これらの検査は、何も自覚症状がないという方々のためのスクリーニング(ある程度機械的なふるい分け)ですので、少しでも気になる症状や変化があれば、医師による診察が必要になります。



### 【検査方法】

前立腺	乳房	子宮	大腸	肺	胃
採血 (PSA測定:腫瘍マーカー)	マンモグラフィ 視触診	細胞診 (子宮頸部)	便潜血検査	胸部X線撮影 喀たん検査	胃バリウム検査

検査後、約1カ月ほどで結果をお知らせします。「精密検査を受ける必要がありません」「所見がありますが心配ありません」の場合は郵送、精密検査を受ける必要がある場合は保健師が訪問や電話で伝えます。

「精密検査を受けてください」＝「がん」ではありません。少しでも気になる部分があれば、精密検査でさらに詳しい検査が必要という意味です。精密検査を受けた結果は、ほとんどは胃カイヤウや大腸ポリープなどがん以外の病気が発見され、がんの発見は、各種がん検診で毎年1～2名程度です。

前述と同様に押さえていただきたいのは、がん検診でがんが100%見つかるわけではないことです。

がん細胞が発生した時点から、一定の大きさになるまでは検査で発見することができません。それはがんの種類や検査の精度によって異なります。さらに、がんそのものが見つけにくい形であったり、見つけにくい場所に出たりする場合があります。

たとえば、大腸がん検診は便潜血検査ですので、がんやポリープからの出血が無いときには反応が出ないことや胃バリウム検査やレントゲン検査では隠れていたり見えにくかったりすることがあります。

このように、検診を受ければ100%安心ではないこと、そのため「この頃お便の調子が悪いな」と体調の変化を知ることや乳房の自己触診は検診を受けることと同様にとっても大切といえます。

また、主治医がいる方がご自身に合わせて胃カメラ等の検査を定期的を受けたり、各専門の医療機関(婦人科や泌尿器科など)で診てもらったり、PET検査を受けたりと町の検診以外を受けている方もいます。ご自身が納得される形で、継続して検診を受けましょう。

次回は最終回です。これまでのまとめをお伝えします。

問合せ 健康福祉課健康推進係 ☎ 4555

